

石狩湾新港開港20年から30年のトピックス

ガントリークレーン2号機が供用開始
ガントリークレーンが2基体制となったことにより、事故や故障によるリスクを回避し、より安定的なサービスが提供可能となった。



東地区国際物流ターミナル整備事業に現地着手
新たに水深12mの岸壁などを整備することにより、循環型社会の形成や再生可能エネルギーの導入促進を支援している。



岸壁用地9.9ha
埠頭用地1.5ha
航路・泊地(水深12m)27.5ha
泊地(水深12m)

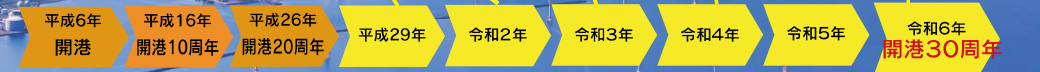
港湾区域内で洋上風力発電施設が商業運転開始
合同会社グリーンパワー石狩が、日本初の8MW大型風車を採用した国内最大規模の商用洋上風力発電所の運転を開始させた。



農水産物輸出促進計画全国第1号の認定
CFS※の整備と冷凍・冷蔵コンテナの電源供給設備の増設が進められることとなった。
※CFS 小口貨物積荷円滑化支援施設

外航商船入港8千隻達成

令和6年 開港30周年



外貿定期コンテナ航路の就航状況 令和6年10月現在

- 平成9年7月 興亜海運(現 興亜ライン)による外貿定期コンテナ航路が開航。
- 平成15年10月 高麗海運(株)
- 平成27年10月 長錦商船(株)
- 令和2年1月 南星海運(株)



石狩湾新港地域内の主なトピックス

- 東洋水産(株)石狩新港物流センターが稼働(令和2年)
- コストコ石狩倉庫店のオープン(令和3年)
- イオン石狩PCが稼働(令和3年)
- ニトリ石狩DCが稼働(令和4年)
- 石狩新港バイオマス発電所の営業運転開始(令和4年)

石狩湾新港地域の操業社数の推移

平成26年	令和6年
625社	711社
	113%

令和6年3月末現在

市民とともに石狩湾新港開港の歴史を振り返る 石狩湾新港開港30周年記念協賛展が開催

令和6年6月11日から16日まで、石狩市民図書館において、石狩湾新港開港30周年記念協賛展～新港のあゆみとみらい～が開催されました。本展示は石狩湾新港振興会(会長 田岡克介氏)が主催したものです。

明治時代に構想された石狩川の河口を改良した港の計画図や本港の建設にあたり実施された環境調査などの各種報告書のほか、港の形の変遷が分かる年代ごとの航空写真(要覧)など、会場には本港の歴史を物語る資料が数多く展示されました。また、港の将来像に関する資料もあり、来場した多くの市民にとって本港の歴史に触れるとともに未来について考える貴重な機会となりました。

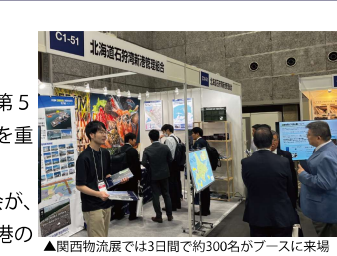


TOPICS!! ポートセールス活動に取り組んでいます 関西物流展・国際物流総合展に出展

石狩湾新港管理組合では、令和6年4月10日から12日まで大阪市で開催された第5回関西物流展に出展しました。本展示会への出展は4回目となりますが、出展回数を重ねるごとに関西地域における本港の知名度の向上に手応えを感じています。

また、9月には、当組合が構成員である札幌臨海小樽・石狩地域産業活性化協議会が、東京都で開催された国際物流総合展2024に出展しました。物流2024年問題で地方港の活用が目ざされ、複数の企業から本港の利用を検討したいとの声がありました。

今後も北海道の大消費地である札幌に一番近い港「石狩湾新港」をPRしていきます。ブースにお立ち寄りいただきました企業の皆様、ありがとうございました。



MARINE PRESS

ISHIKARI BAY NEW PORT NORTHERN PORT DAZZLING THE WORLD FROM ISHIKARI

石狩湾新港管理組合
石狩湾新港外貿貨物利用促進協議会
北海道石狩市新港南2丁目725-1
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666
http://www.ishikari-bay-newport.jp

石狩湾新港開港30周年特集号

実行委員会が開港30周年記念式典を開催

石狩湾新港は、平成6年に関税法に規定する港指定を受け、外国との貿易が出来る国際貿易港として開港してから、今年で30周年を迎えました。このことから、石狩湾新港開港30周年記念事業実行委員会(事務局 石狩湾新港管理組合)では、開港からの歴史を振り返るとともに、今後の発展を祈念する式典を6月10日に開催しました。式典には、港湾関連企業及び関係団体、国会議員、北海道議会議員、石狩湾新港管理組合議会議員、関係行政機関など約200名が参加しました。

30周年を迎えて

記念式典では、実行委員会委員長(石狩湾新港管理組合管理者(北海道知事)鈴木直道より「石狩湾新港は、札幌に最も近い港湾として、外貿定期コンテナ航路をはじめ、多くの船舶にご利用いただけてきたところであり、また、周辺地域には760社を超える企業の皆様に立地いただくなど、本道経済や道民の皆様の暮らしを支える物流拠点として成長してきました。このように本港が発展できたことは、ご臨席の皆様をはじめ、地域の皆様や港湾利用者の皆様のご理解とご協力の賜であり、改めて関係する全ての皆様に深く感謝を申し上げます」と式辞を述べました。



続いて、函館税関小樽税関支署、札幌出入国在留管理局、小樽検疫所からの祝辞がありました。祝辞では、近年の石狩湾新港が札幌圏の流通港湾としての機能に加え、緊急時の物資供給や再生可能エネルギー供給拠点としての役割を果たしていることに触れ、今後さらなる発展への期待が寄せられました。

ポテンシャルを活かした港づくりに取り組む



その後のセレモニーでは、国会議員や実行委員会委員等がステージに設置したたくす玉を開披し、本港の開港30周年を盛大に祝いました。

最後に、石狩湾新港管理組合より、「30周年のあゆみ」と題し、港の建設時や開港から、今日までの本港のトピックスを紹介しました。

式典後には祝賀会が開催され、実行委員会特別顧問の迫 小樽市長による主催者挨拶の後、来賓の皆様からお祝いの言葉がありました。その後、実行委員会特別顧問の加藤 石狩

市長が祝杯をあげました。会は終始和やかな雰囲気で行われ、締めくくりとして実行委員会委員である石狩湾新港振興会 田岡会長の万歳三唱で、本港の益々の発展を祈念し、閉会しました。

本港は開港30周年という一つの節目を迎えましたが、これからも札幌に最も近い港湾などといったポテンシャルを活かした港づくりに取り組んで参ります。引き続き、皆様のご支援、お力添えをお願いいたします。式典・祝賀会にご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

感動の夏！「日本丸」が30年ぶりに石狩湾新港に寄港

8月10日、11日石狩湾新港開港30周年記念フェスタ開催

石狩湾新港開港30周年記念事業実行委員会では、市民がこれまで以上に港に親しみ、港湾や物流への理解を深める機会を創出するため、8月10日、11日の2日間、「石狩湾新港開港30周年記念フェスタ」を開催しました。フェスタでは、独立行政法人海技教育機構の練習船「日本丸」の一般公開を実施したほか、ポートウォッチングやステージイベントなどを行い、2日間で約13,000人の来場があり、子どもから大人までたくさんの方が港を楽しみました。

帆船「日本丸」船内見学に長蛇の列

石狩湾新港開港30周年記念フェスタは、天候に恵まれたこともあり、2日間で想定以上の多くの方が来場しました。特に、帆船「日本丸」の一般公開に期待している方が非常に多く、船内見学の開始前には、長蛇の列ができるほど人気となりました。この船内一般公開では、「ただ船内を見るだけでなく、乗組員や実習生から航海中や実習中のお話を聞いた」「椰子の殻を使って甲板を掃除する椰子摺り体験等、貴重な経験ができた」など、来場者からは多くの喜びの声が寄せられました。



▲最大1時間待ちの行列となった船内見学

また、会場内では「日本丸」を所有する独立行政法人海技教育機構のブース出展もあり、小樽市にある学校の説明や御船印等のオリジナルグッズの販売が行われました。特に子ども達には、船員の制服を実際に着用することができる体験が大変人気で、多くの親子が記念撮影を楽しんでいました。



▲洋上風車を間近で見学するツアーも開催



▲港を海上から眺める特別な体験！



▶椰子摺り体験の様子
実習生がコツを紹介

様々な企画で港を楽しむ

イベントでは2日間にわたり、日本丸の一般公開の他にも、ステージイベントやキッチンカーの出店、団体のPRブース出展など来場者が夏の思い出作りをできるような企画を用意しました。中でも、タグボート等に乘船し、港湾を船上から見学する「ポートウォッチング」では両日ともにイベントの開始後まもなく整理券の配布が終了するほどの盛況を見せました。

この「ポートウォッチング」では、港湾の役割や機能についてガイドを行いながら、船上から各ふ頭を見学しました。参加者は、帆船やコンテナ船などの停泊している船舶やLNGタンク、洋上風力発電施設といった港湾特有の巨大な建造物を目の当たりにし、港のスケール感に驚くとともに暮らしとの密接な関わりについて、より一層理解を深めていました。

石狩湾新港がロケ地となった曲をご存じですか？

記念フェスタに出演した北海道を中心に活動するHAMBURGER BOYS（ハンバーガーボーイズ）。令和2年にリリースされた「石狩 Got it Goin'on」は、石狩湾新港花咲埠頭でプロモーションビデオが撮影されており、歌詞にも「石狩湾新港」が登場しますので、ぜひご覧ください！



YouTube



港湾の将来のために

小中学校を対象に出前授業や港湾見学会を開催

現在、日本の港湾業界や物流業界は人手不足に直面しています。港湾は貿易や物流において欠かせない役割を果たしているにもかかわらず、若い世代の関心が低下している現状があります。こうした状況から、本年、石狩湾新港管理組合では、開港30周年を契機に、本港をこれまで以上に身近に感じてもらうため、小中学校を対象に出前授業や見学会を開催しました。

出前授業を行った中学校では、港湾の役割や本港での取扱貨物の特徴を紹介し、世界とつながる港が地元であることを説明しました。生徒は、「自分の住んでいる地域にコンテナ船が入ることを知らなかった、勉強になった」と感想を話していました。



▲スライドで港湾の紹介を行った



▲物流の現場を体感する子どもたち



▲大きなコンテナを軽々と運ぶと歓声があがった ▲子どもたちから「コンテナ内がとても涼しい」と感想があがった

また、コンテナヤードを見学した小学校の児童からは、コンテナを目の前に「このコンテナはどこから運ばれてきたのか？」「何が運ばれてくるのか？」など次々と質問があがり、当組合職員の説明によりコンテナ輸送の仕組みに対する理解を深めるとともに、港湾や物流が自身の生活を支える重要な存在であることを学びました。さらに、ガントリークレーンやリーチスタッカー等の大型の港湾荷役機械がどのように動くかにも強い関心を示し、目を輝かせながら質問を続けていました。

本港は住宅が多い地域と距離が離れていることから、市民が港に親しむ機会が少ない状況にあります。当組合では、今後このような学びの場などを通じて、若い世代に港や物流に興味・関心を寄せるきっかけづくりを行っていくことが重要であると考えています。また、将来、出前授業や見学会などに参加した児童生徒たちが港湾業界や物流業界で活躍する姿に期待しています。

TOPICS!! 釜山港セミナー IN ISHIKARI 釜山港湾公社(BPA)が札幌でセミナーを開催

釜山港湾公社(BPA)は、令和6年7月札幌市内のホテルで石狩湾新港をテーマとしたセミナーを開催しました。石狩湾新港管理組合もセミナーに協力して、北海道内の物流事業者や荷主など150名以上が参加しました。

セミナーでは、BPA日本支部代表より釜山港で進む港湾整備や背後地の物流施設の現状のほか、同港での積み替えメリットなどについて説明がありました。また、日本海側に位置する港湾は、世界各国と航路がつながる釜山港を活用することでコストの縮減やリードタイムの短縮が図れること、令和6年4月から適用されたトラックドライバーの時間外労働規制には、釜山港をハブ港として地方港を活用することが対策の一つとなることを強調しました。

最後に、石狩湾新港管理組合の清野振興部長は「石狩湾新港は北海道経済の中心である札幌に最も近い港であり、札幌の港と言っても過言ではない」と述べ、直近の取扱貨物や航路の就航状況、港湾背後の生産と流通の拠点について説明し、本港の利用促進を呼びかけました。ご出席いただいた皆様、誠にありがとうございました。



▶セミナー冒頭で挨拶をするBPA姜方一社長



▶BPA日本支部代表